

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1273600260		
法人名	医療法人社団千葉医心会		
事業所名	グループホームスピリット		
所在地	印西市大森2228-1		
自己評価作成日	平成21年10月20日	評価結果市町村受理日	平成21年12月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ACOPA		
所在地	千葉県我孫子市本町3-7-10		
訪問調査日	平成21年11月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は、地域に溶け込んだ家庭的な雰囲気をめざす事を運営の目標としている。日常の生活を職員や他の利用者と共に毎日行う事で、利用者自身が自信を持って生活が出来る、一緒に笑いながら掃除をしたり、体操をしたり、近所に買い物に行ったりしている。自分で出来ることは自分で出来るように見守るという姿勢で、チームで取組んでいる。役割も自然に決まり、得意なことが毎日行う事が出来て行動的になってきており、体力もつき体調を崩す方が少なく事故も減っている。毎月1回利用者が意見や要望が自由に言えるお茶会を開き、ドライブに行く場所を決めたりもする。笑顔は心の満足と受止めチームで生活を支え、いろいろな工夫をしながら気がねなく暮らせるように努力をしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人は近くにクリニック、道向いに老人保健施設を保有し幅広い活動を行っている。利用者は、老健施設の行事にはよく参加をし、グループとしての利便性を活用している。2年前に就任した施設長の方針で、[自立すること]をテーマに、(1)自分で歩く(2)おむつをしないことにチャレンジしている。以前はおむつをした人、寝たきりの人もおられたが現在一人もいない。元気で明るい施設長のあくなき研究心とスタッフ一団になったテーマへの取組みが利用者を元気にしている。行事や誕生会の写真をパネルにして13枚が廊下に貼り出されているが、その光景は圧巻である。毎月送られる『スピリット便り』とあわせ、訪問した時その写真を見た家族に安心を与えていると思われる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果		項目		取り組みの成果	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営方針及び理念を解りやすく書いた物を事務室に張り毎日声に出して読み再確認してよりよいケアが出来るよう努力している。	法人の理念は「地域にとけ込み家庭的な雰囲気の中で気持ちよく自立した生活を目指す」である。理念や運営方針はよく見えるように事務室に掲示し、毎日朝礼の時に読み、再確認をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	畑で野菜を作っているので頂いたり譲って頂いたりしている。職員が挨拶に行ったりしながら少しずつ交流が築けている。8月のお祭りや9月の運動会など参加している。	事業所は自治会に加入している。利用者は散歩の時や、地域の人と会ったときに必ず挨拶をし、ことばを交わすようにすると共に、秋祭り、中学校の運動会、幼稚園の訪問等、様々な機会を通じて地域との交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症、インフルエンザなどについて運営推進委員会の中で話をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	定期的に民生委員、町内会の方、市の職員、家族、本人を交えて色々な情報交換をしてそれをサービスの向上につなげるように努力をしている。	運営推進会議は年2回の開催している。7月の会議では、感染症等の対応や秋祭りへの参加、認知症の家族介護の悩み等の話題があった。避難訓練については、地域からの災害情報や非常時における支援の申入れ等をいただいている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	インフルエンザに関しては頻りに情報を頂いて予防に努めている。地域ケア会議などにも出席してホームの現状なども話しながら支えていただいている。	施設長は地域ケア会議への出席時や市役所に行った折り、介護課職員が運営推進会議に出席した時を活用し、市町村担当者と頻りに情報交換をしコミュニケーションを深めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎年外部の研修に参加して職員に伝達をして縛らないケアを工夫しながら取り組んでいる。	研修などにより拘束をしないケアに取り組んでいる。例えば、入所者がベットから落ちるのはそれなりの理由があるので、そのわけと時間を考え、見回りをこまめに行い、拘束をしないルール作りと介護を実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会をし、職員同士虐待がどう言うことなのかを考えたりできるように年1回定期的に勉強会を開き、そのようなことがないように努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部の研修会に参加して学習したことを伝達講習し、職員の認識を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	文書、口頭での説明を充分行って理解をしていただいてから進めるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	耳を傾け心配なことなど充分聞き要望に答えるように努力をしている。	意見箱は玄関に備え付けているが、あまり利用されていない。家族には訪問の機会を利用して「なにかありませんか？」等とよく声かけをし、意見を伺うようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を毎月開催し、業務の見直し、あらゆる疑問・ケアのあり方などを話し合っている。	毎日の朝礼で、ミニカンファレンスを行って意見や提案について話し合っている。休日のスタッフは連絡ノートを見てサインをする。職員会議は月1回あり、状況報告や対策の話し合いを行っており、業務の改善に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の話に耳を傾けアドバイスや仕事への悩みなど話をきいて楽しく仕事ができるよう人の環境などに配慮できるよう努力をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員会議の中で必要なテーマ、知りたい情報などを取り上げ一人一人が意欲をもって仕事が出来、質の良い仕事ができるようよう応援している。研修も参加させている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月グループホーム管理者会議に参加して情報交換、ケアに対する取り組み、事故報告に対する対策の意見交換などしながらサービスの質の向上に向けて取り組みをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初めての場所で家族と離れて暮らすことへの心配不安などの気持ちを受け入れ人の顔や生活環境に早く慣れていただくために笑顔で明るく声掛けをしてここに居たいと思っただけの様努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家に居た時の状況やたいへんだったこと、離れて暮らすことのつらさなど話しやすい関係作りを心掛けて受け入れ安心して頂けるよう努力している。施設の暮らしなど知りたい情報など充分説明して安心して頂くなど心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、家族の不安なことや要望など本人の状況なども踏まえ話し合い、対応ができるように努力をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は援助ではなく支援の視点でケアができるように心がけている。いつも笑顔でやって上げるのではなく、やって頂く工夫をしながらいつも関わっていけるように心掛けている。笑いのある環境作りをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時できるだけ本人の暮らし振りやエピソードを家族にお話して思いを共有し、本人がより良い生活ができるよう家族の視点から話を聞いたり、必ず何かの要望がないかを聞いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	買い物に行くときは本人が買い物に行っていた店と一緒に買い物に行ったり、以前居た施設の方を招待したりなどはおこなっているが全員に対しては出来ていないが、良き時代を忘れないよう心掛けている。	本人がよく利用していたスーパーと一緒にいき、買い物やお茶を楽しんでもらったり、本人が作っていた近くの畑へ、露や茗荷を採りに行ったりしている。入居前に住んでいた施設の友だちをお招きして、大正琴の演奏してもらったこともある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	1人1人の得技や癖や性格、できること、できない事を職員は把握して利用者同士が寄り添えるように、お隣さんの心配などができるように、応援していけるように努力をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	近くの施設に移動した場合は声掛けたり、家族と少し話す程度、積極的にはしていなかった。これから、関係保持できるように意識して行けるようにしていく。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思い思いの暮らしができるように本人を尊重し、困難な方には、日中の暮らしのリズム、楽しみなど個別の情報の中から提供できるように努力している。	一人ひとりにじっくりと接し、会話や興味・関心事、生活のリズムなどから思いや意向の把握に努めている。毎月楽しみにしている何でも話せるお茶の会は、困難な人も含め本人の希望や意向の表明に繋がっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族からの情報からご本人が居場所として落ち着けるような環境作りをする為の情報の把握ができるように努力をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活パターン、生活意欲、一般状態、体力など考慮してレクリエーション、体操などを選んでやるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会議の中で課題について話し合い、意見を出し合い、職員全員が課題を共有でき、対応ができるようにしている。	本人の普段の生活や状態、家族との訪問時や電話連絡等での話し合った内容や日々のケア記録などをもとに、職員会議で話し合い、常に現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に毎日記録している。ケアの中で成功例やいつもと違うことがあれば報告し連絡帳などで全職員に伝達し実践できるようにしている。計画への反映も必要時できるように努力をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々状況によって計画の変更をしたり、前向きな姿勢で取り組めるように努力をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会の祭りへの参加、散歩、芋掘りなど季節毎に地域にお世話になっている。継続できるように支援をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	状態が変化した時点でかかりつけ医に状態報告を行い受診か他の医療機関受診かの指示を受けて家族へ説明して意向を聞きながら対応している。本人家族には必ず説明をして情報を共有している。	本体が医療法人であり、毎週医師の往診がある。急変時にも医師から適切な指示を受けている。入居前からのかかりつけ医通院には家族が対応している。アンケートでも全員が医療面での心配な点はないと答えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入浴、トイレ、歩行介助時など皮膚の変化、歩行の状況など日常生活の中でいつもと違うと思った疑問など、報告しすぐ見て貰う環境はできている。報告出来ない時は連絡ノートで情報が伝わるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院のケースがあった場合対処の努力をす。現在はかかりつけ医との連携を取りながら緊急時に御本人、御家族がスムーズに希望の医療が受けられるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のケアに対し、近くの老健のスタッフの援護を受け取り組んでいる。本人、家族とは日頃から深い信頼関係を築きながら、日頃から暮らしの状況など話すようにしている。以前ターミナルケアで臨終を経験している。	終末期のケアは家族からの依頼があった時、老健の協力を得て行っている。3月には家族から「ターミナルまでホームでみて欲しい」との依頼があり、特別な医療が必要になった場合は医療機関に移っていただくことを了承してもらい、チームで支援しお見送りをした。	現在「重度化した場合の方針」や「看取りに関する指針」は検討の段階であるが、なるべく早い段階での指針作りが望まれます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故時の対応はそのマニュアルに沿って全職員が出来るようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	関連施設の老健と合同で年2回消防訓練をおこない避難方法を経験し習得している。	消防署の立会いで年2回、夜間を想定した避難訓練をしている。利用者も役割のもと避難方法の習得に努めている。今まで地域に声をかけていなかったが「協力しますよ」の声があり、次回からは一緒に訓練する予定である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	特にトイレ、入浴介助の時は露出部分を少なくして恥ずかしい思いをしないようにし、本人を傷つけるような言葉掛けはしないように努力をしている。	年長者として敬意を払うとともに、個人の私生活や秘密を守るよう気をつけて対応している。特に、トイレや入浴介助ではタオルやカーテンなど有効に使い、羞恥心を和らげるようしている、又なるべく同性介助を基本としている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段から話しやすい関係作り、笑顔で関わるようにして話しやすい環境を作り自発的に色々なことが出来るように努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	買い物に行きたい、コーヒーを飲みに行きたいなどは随時対応している。訴えられない方に対しても声をかけながら楽しく過ごせるように配慮する努力をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その方の衣類の準備などする時に好みの色のものを選んだり、どれがいいかなど本人に聞くように心掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	状況に応じて出来ることを日常生活の中で出来るように支援をこころがけている。	利用者が主となって作っている畑の収穫物や散歩中に頂いた野菜などが食卓に上っている。又、下準備や配膳・片付けなど利用者が一緒に楽しみながら行っている。状態に合わせた食形態の提供や箸の持つ手をさりげなく介助したりして食事を楽しんでもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や栄養のバランス、水分量が1日を通じて確保できるよう個々の食べる力、胃の状況にあわせて工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎日朝夕に洗面時に支援援助をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレが解らない方には表示をして自分でいける様にし介助の方には時間は決めているが状況に応じて誘導をおこないオムツは使用しない方向で職員が努力をしている。	排泄の自立支援として、トイレの場所を大きな文字で表示したり、介助の必要な利用者には態度や様子でキャッチし誘導を行い、おむつはずしに繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	1人1人の便秘の状況を確認しながらなるべく下剤をしないで自然排便を心がけている。必ずトイレで気兼ねなく出来るようにこころがけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一番風呂の希望の方や時間帯を決めないで入ったか入らなかったのか混乱してしまう方には決まった時間に入って頂いている。個々の要望を叶えるために組み合わせなどに配慮している。	毎日や一日おきなどそれぞれの希望に応じて入浴日を決めている。入浴の時間も個々に対応し入浴の負担感をなくするように努めている。又、入浴スケジュール表を作成し、前後3日間の入浴が分かるように工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人1人の生活のペースをつかみその日の体調等を把握し生活にメリハリをもてるよう日中は活動的に過ごしていただけるよう個々の体調に配慮し支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が薬の把握が出来るようにケースに記載をし変更時は情報を共有できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	絵本や雑誌を読んだり、洗濯物をたたんだり花の水遣りをしたり、畑で野菜を作ったり、花など生けたりその方の好きなこと出来ることに注目して毎日行えるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望に応じて近くに散歩に行き野の花を取りに出かけたり玄関のベンチで日光浴をしたり、全体行事では花見、なし狩り、カラオケ等に外出している。利用者との話し合いで場所を決める行事もある。毎日散歩、犬と30分程度している方もいる。	天気の良い日はいつも近くへ散歩に出かけ、地域の人と挨拶したり、野菜や花を頂いたり温かい目で見守って戴いている。飼い犬の散歩を日課にしている利用者もいる。月一回は季節の花見や梨狩り、宗吾霊堂参詣など遠出の外出もあり、全員が楽しみにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	支援の結果売りに来るパンを買う人、職員と共に買い物と一緒に行って自分の必要な物を自分で買う人、宝くじを買ったり歯科受診時支払いをしたり、自分でお金の管理している方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	可能な方は自発的に電話をしたり手紙を書いて出しにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、ホールには季節の花が飾られ利用者が毎日水を取り替えている。温度、湿度は毎日チェックし風を入れたり調整している。曆も壁にはり日にちが解るようにして生活できるように配慮している。	玄関や居間には季節の花が飾られ、玄関にはホーム全体で応援するプロ野球選手のサインボールを数個飾るなど、利用者の励みになっている。強い日差しはカーテンで調整したり、換気も頻繁に行って居心地よく過ごせるように努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1人1人の生活のリズムに応じて自然にその方たちがゆったり静かに過ごせる空間ができています。食卓を気持ち良く過ごせるメンバー同士が座れるように考慮もしています。席は固定しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族が持参する花を飾ったり、馴染んだタンスや家具を使用したり、家族の写真を飾ったりして安心して過ごせるように配慮している。	部屋に花を飾ったり、使い慣れたタンスや小物、写真やお位牌など本人の馴染みのものや大切なものが置かれている。又、居室の掃除は出来るところは本人が行うようにして、張り合いを持って過してもらえよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレが解るように表示したり、洗濯籠を個別に作り、自分で持ってきて洗濯して干し乾いたら取り込めるよう自立した生活ができるよう工夫をしている。		